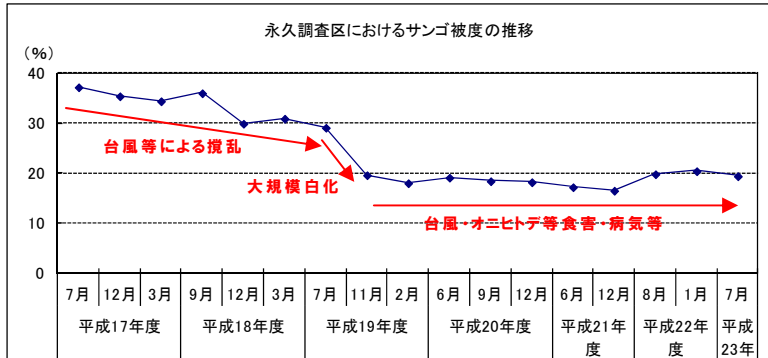


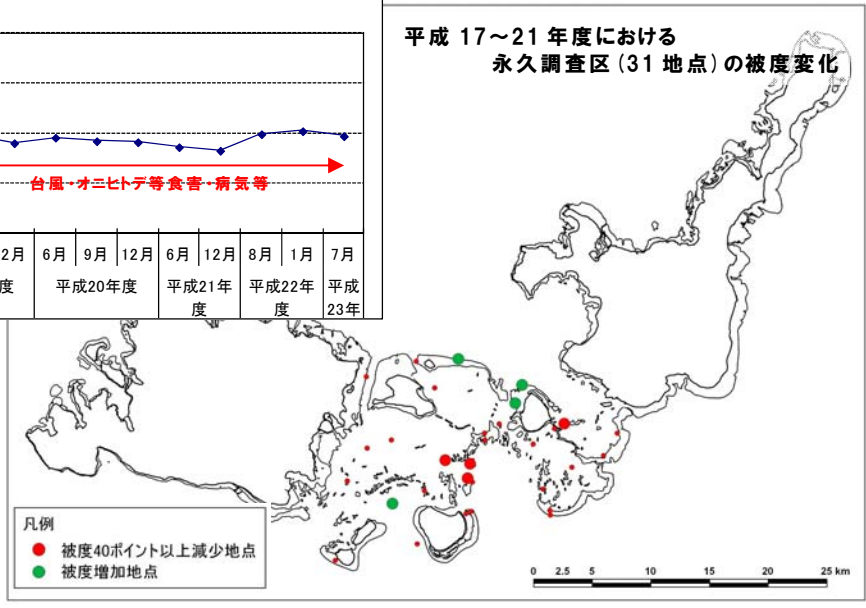
1. 石西礁湖におけるサンゴ群集の現状

<サンゴ被度>

- 平成 17 年～21 年度において、永久調査区 31 地点のうち、被度が増加したのは 4 地点、減少したのは 27 地点。
- 平成 17～18 年度においては、台風による攪乱によってサンゴ被度が減少。
- 平成 19 年夏の大規模な白化現象によって、ほとんどの地点で被度の減少。
- 白化現象後も被度は顕著な回復は見せていない。その原因は台風による攪乱もあるが、オニヒトデやシロレイシガイダマシ類による食害などによるところが大きいと考えられる。

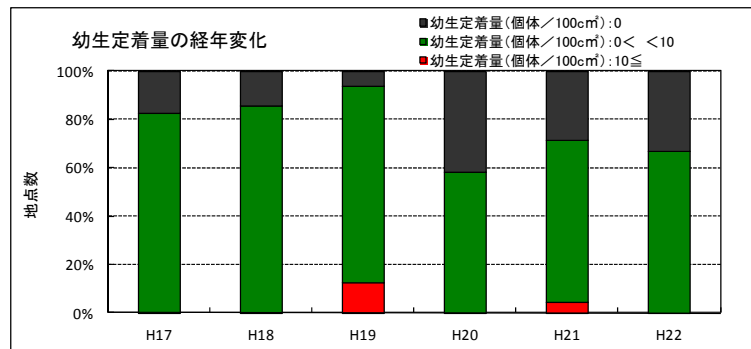


平成 17～21 年度における永久調査区 (31 地点) の被度変化

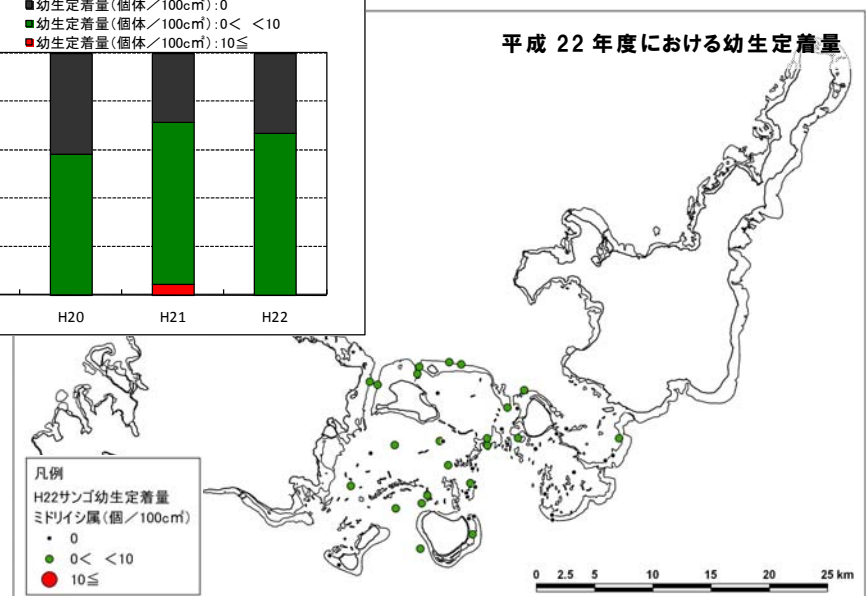


<サンゴ幼生定着量>

- 定着加入の状況は依然厳しい状況。
- ミドリイシ属稚サンゴ密度が 0 だった調査地点は、平成 20 年は 23 地点、平成 21 年 13 地点、平成 22 年には 18 地点

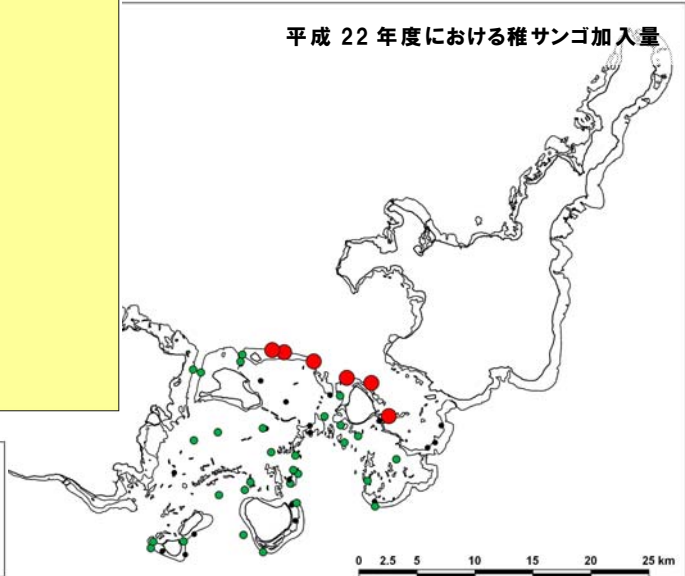
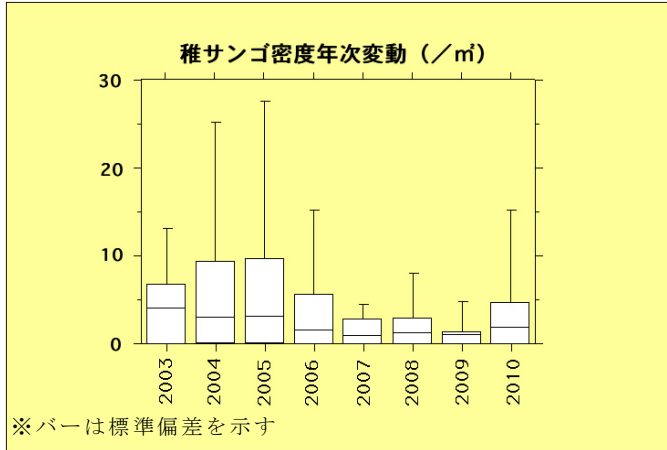


平成 22 年度における幼生定着量



<一年生稚サンゴの新規加入量>

- ・ 稚サンゴ密度は、平成 17 年度をピークに減少傾向にあり、平成 22 年度はやや回復したものの、自然加入の目安である $10/m^2$ よりも低い地点が多い。北礁については、 $10/m^2$ 以上の加入がみられる。



<攪乱要因>

◆ SPSS

- ・ 平成 21 年度 12 月調査では、SPSS ランク 5b 以上の地点が比較的多くみられた。

◆ 白化状況

- ・ 平成 18 年度から白化の傾向が見られ、平成 19 年の大規模白化が起こった。その他の年度においては、白化は限定的である。

◆ オニヒトデ

- ・ 石西礁湖北礁、石垣島北側を中心に大発生している状況。

